

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 12 No.7 2010年4月15日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2010 CNA Report Japan. All rights reserved.

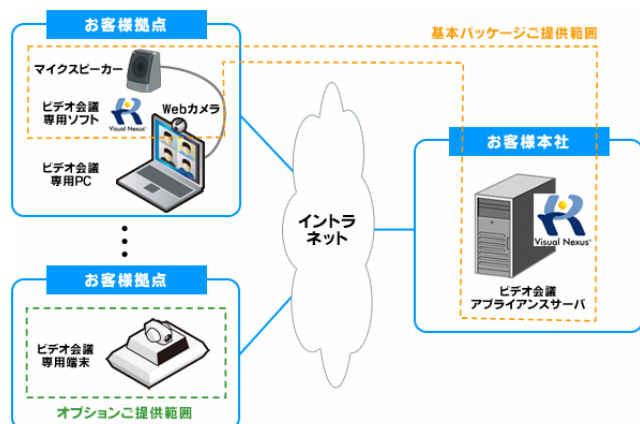
製品・サービス動向-国内

沖電気ネットワークインテグレーション、ビデオ会議エントリーパックの販売開始

沖電気ネットワークインテグレーション株式会社(東京都江東区)は、小規模からビデオ会議を手軽に始められるエントリーパック「VOCS-Lite(ボックス・ライト)」を3月16日より販売開始した。出荷開始は、5月から。

VOCS-Lite は、沖電気工業のビデオ会議ソフトウェア「Visual Nexus(ビジュアルネクサス)」をベースに開発されており、サーバ、クライアントソフト、Webカメラ、マイクスピーカをパッケージ化して提供する。また、導入および運用に必要な各種の設定を簡略化し、導入しやすい価格帯に設定した。5拠点への導入では、128万円(税別、以下同じ)から、10拠点への導入では、161万円から。ソフトウェアライセンス追加によって最大30拠点まで拡張可能。

VOCS-Lite で使用する「Visual Nexus Endpoint(ビジュアルネクサスエンドポイント)」は、PCにインストールするクライアントソフトウェアで、H.264映像コーデックで最大4CIFサイズ(704x576)での映像に対応している。



VOCS-Lite 構成イメージ (OKINET 資料)

その他、以下の特長がある。(1)最大16画面分割に対応。最大30拠点を同時に結ぶ会議の開催が可能で、会議に参

加している拠点のうち最大16拠点分の映像を表示することができる。

(2)資料共有機能。「Microsoft Office PowerPoint」、「Microsoft Office Excel」などの資料を簡単に画面上で共有できる。

(3)システム管理者によるビデオ会議用ネットワーク帯域の一元管理が可能。システム管理者は拠点毎に異なるネットワーク帯域を勘案して、各拠点の端末が送受信できる映像・音声通信の帯域の上限を個別に設定することが可能。

(4)ビデオ会議専用端末との混在運用が可能。VOCS-Lite は、Visual Nexus 同様、パナソニックやソニーなど各社のビデオ会議端末との接続も可能。追加のライセンスを購入することで対応する。

沖電気ネットワークインテグレーションによると、販売目標は、今後3年間で600セット。

クレオのWeb会議システム、月額固定のASPサービス開始

株式会社クレオ(東京都港区)は、Web会議システム「FACE Conference(フェイスカンファレンス)」の月額利用サービスを3月17日発表、同日より開始した。

FACE Conference は、クレオの法人向けソリューションブランド「ZeeM(ジーム)」のラインナップ。これまで、パッケージソフトウェアとして300社10,000ライセンスのユーザに導入されているという。

今回このFACE Conference を月額固定のASPサービスとして提供開始する。サービス利用価格は、10ユーザ5万円/月から提供する。ただし初期費用は別。

クレオは、ASPサービスのメリットとして、以下の点を挙げる。(1)サーバやOSなどの初期構築が不要。クライア

ントPC、Web カメラ、ヘッドセットまたはマイクとスピーカを準備するだけで簡単に導入できること。(2)月額固定の利用料金のため、利用時間帯や接続時間などデータ転送量を気にすることなく利用できる。またネットワークとPCを用意できれば利用場所の制限もない。(3)全ての通信データについてSSL暗号化に対応。また、システム運用維持に必要なとなるサーバのOSパッチインストール作業、マイナーバージョンアップ対応などのシステム維持管理をクレオが実施する。

初年度の受注目標社数については、200社。

クレオは、官公庁や企業向けにシステムを構築するシステムインテグレーション事業、人事給与・会計業務ソリューションをはじめとした法人向けプロダクトを提供するZeeM事業、「筆まめ」などのコンシューマ向けパソコンパッケージソフトの開発・販売を行うコンシューマ事業、モバイルコンテンツソリューションを提供するモバイル事業を中心に事業展開している。

事業動向-国内

ポリコムジャパン、ビデオ会議に必要な帯域幅を半減する映像圧縮符号化方式に対応

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、「H.264ハイプロファイル(H.264 High Profile)」と「Full SVC」に対応したと発表。(3月15日) H.264ハイプロファイルは、映像圧縮符号化方式の国際標準規格。

H.264ハイプロファイルは、従来の符号化方式に比べ、符号化効率を上げる点が特徴。512kbpsの帯域からフルモーションのHD画質を、また128kbpsからDVD並のDS画質を実現すると同社では説明する。

このH.264ハイプロファイルによって、テレプレゼンス、HD(ハイデフィニション)およびSD(スタンダードデフィニション)映像に必要なネットワーク帯域にかかるコストの削減や高品質通信に要する帯域幅を半減することが可能になったと同社では説明する。

また、ポリコムが提供してきた「Lost Packet Recovery(ロスパケットリカバリー)」技術によって、頻繁にパケットロスが発

生するネットワークにおける音声、ビデオ、コンテンツの品質を保護するという。

H.264ハイプロファイルの実装が実現すると、モバイルワーカーや在宅勤務者(SOHO)での利用促進や、ユニファイドコミュニケーション環境におけるテレプレゼンスおよびビデオ会議システムの活用を促進すると同社では期待している。ユニファイドコミュニケーションは、アバシア、マイクロソフト、IBM、BroadSoftなどのPolycom Open Collaboration Network(POCN)のパートナーが提供している。

一方、Full SVC(Full Scalable Video Coding)は、帯域幅低減、パケットロス発生時のエラー補正、多地点会議の拡張、汎用性(異なるビデオプロトコルとの相互運用性)などの問題に対処するために提供される。

ポリコムによると、現在のSVCソリューション(国際標準映像符号化方式の国際標準であるH.264/MPEG-4 AVC Annex G)はこれらの問題に限定的に対応している。しかし、国際標準に準拠したシグナリングに対応していないため、SVCを採用する他のテレプレゼンスやビデオ会議システムなどと相互運用ができないと説明する。

そこで、ポリコムとしては、この問題に対処するために、Full SVCを提供することにした。これによって、SVCのメリットである汎用性を拡張し、国際標準に準拠するビデオ会議システム、SVCや従来型、H.264やMicrosoft RTVなどのシステムとの完全な相互運用性を実現する考えだ。

H.264ハイプロファイルは、ポリコムのHDビデオ会議システム「Polycom HDXシリーズ」に4月よりサポートされる予定。HDXシリーズ以外にも、インフラストラクチャー(MCUなどの装置)や会議レコーディングソリューション、テレプレゼンスなどにもサポートされる予定。

一方、Full SVCは、2010年中に提供予定。

(次ページへ続く)

製品・サービス動向-海外

タンバーク社、1080p 対応デスクトップ向けパーソナル端末を発表

タンバーク社は、デスクトップ用やホームオフィスなど向けのデスクトップ向けパーソナルソリューション「TANDBERG EX90」を発表した。(3月18日)



TANDBERG EX90 (日本タンバーク資料) カメラの角度を手元の方の下に向けてドキュメントカメラとしても活用できるという。



TANDBERG InTouch、ハンドセットは取り外すことも可能。画面上に指でタッチして操作する(日本タンバーク資料)

TANDBERG EX90 は、コーデックの他、24インチHDスクリーン、スピーカー、マイク、カメラなどを内蔵し、ビデオ会議通話だけでなく、PC モニターとしても活用できる。カメラは、HD に対応した「PrecisionHD カメラ」。また画面上に指を滑らせるだけでビデオ通話やコンテンツの共有、機能の操作などが行える 8 インチタッチスクリーン対応「TANDBERG

InTouch(タンバークインタッチ)」も装備。さらに、音声用ハンドセットや、2台目のディスプレイにも対応。

TANDBERG EX90 の通信機能については、H.323/SIP、ポイントツーポイントでの通信では最大 6Mbps まで対応。映像符号化方式は、H.261、H.263、H.263+、H.264。解像度は 1080p30、720p30/60 の他 4CIF (SD) などサポートしている。また音声符号化方式は、MPEG4 AAC-LD stereo (ステレオ) も対応している。その他、4 地点多地点接続機能 (MultiSite) や暗号化も対応。



TANDBERG EX90 を横から見た写真(日本タンバーク資料)

データ通信については、デュアルストリーム(H.239)に対応し、1080p/30もしくは、WUXGA 解像度に対応する。加えて、2つのディスプレイを接続することで、一方をビデオ会議の画面、そしてもう一方をデータ画面として使用することも可能。加えて、カメラやマルチメディア機器、周辺機器を簡単に追加することも可能という。

製品サイズは、幅 56.7cm x 高さ 54.5cm x 奥行き 17.3cm。重さ 11kg。

米シスコシステムズ、遠隔医療向けソリューションを米国、カナダ、欧州に販売開始

米シスコシステムズ社は、遠隔医療向けソリューション「Cisco HealthPresence(シスコ ヘルスプレゼンス)」の提供を開始したと発表。(3月1日)

Cisco HealthPresence は、テレプレゼンスシステム「Cisco TelePresence(シスコテレプレゼンス)」と、医療デー

タやストリーミングの送受信機能を提供する「Cisco Vital Software(シスコバイタルソフトウェア)」、音声、ビデオ、データ統合機能、医療機器から構成されるシステム。「Cisco TelePresence」と「Cisco Unified Communications」という2つの技術革新を統合することで実現されたシステムという。このシステムは、米国食品医薬品局によってクラス1医療機器(Class 1 medical device)に分類されている。



Cisco HealthPresence 例 (シスコシステムズ資料)

Cisco HealthPresence は、医師と患者がいるそれぞれの場所に設置する。通信は暗号化に対応しているため、個人データなどのプライバシーやセキュリティを確保している。

Cisco HealthPresence は、お互いに遠隔にいる患者と医師が HD 品質の映像と音声による対面が行えるとともに、システムに接続された医療用機器たとえば、外観観察用の汎用カメラ、耳・鼻・喉用カメラ、デジタル聴診器などを通して、血圧、体温、脈拍、血中酸素濃度などのデータを送受信することで遠隔診療が行える機能を提供する。また、一対一の接続だけでなく、テレプレゼンスシステムの利点を活用した、一人の患者に対して複数の医療従事者が同時に診察に参加することも可能。

米シスコシステムズによると、Cisco HealthPresence によって、ニーズにあった医師や専門医に簡単かつセキュアに接続できるようになり、どの場所からでも診察を受けられるようになる。医師の診療方法と患者の医療体験に大きな変革をもたらされると同社では期待している。

また Cisco HealthPresence はトライアルやパイロットプログラムも 2008 年や 2009 年に実施してきた。ひとつは、米国カリフォルニア州の Molia Healthcare 社と、サンディエゴの2つのコミュニティ健康センター、カリフォルニア州政府が実施。州内で医療サービスが行き届いていない地域への対応の一環としてパイロットプログラムが行われた。

もうひとつは、スコットランドのアバディーンにある Scottish National Health Service 社の 1 部門及びサンノゼにある米シスコシステムズ社の従業員に対してパイロットプログラムを実施。2009 年実施時には、参加者の 90% 以上が、有効活用ができたと好意的な反応を示したという。

プレスリリースによると、Cisco HealthPresence の販売は、米国、カナダ、ヨーロッパ市場で 3 月から開始となっている。

事業動向-海外

ライフサイズ社、アバイア AURA と相互接続を実現することで合意

ライフサイズ社は、アバイア社の「Avaya AURA」ユニファイドコミュニケーションプラットフォームと、ライフサイズ社の HD ビデオ会議システムの相互接続を実現することで両社が合意したと発表。(3月17日)

SIP 対応のアバイアの UC プラットフォームを組み合わせることで、ユーザーのコミュニケーションネットワークがマルチベンダー環境であっても、HD ビデオ会議を導入しやすくなるとともに、また企業内のさまざまなロケーション(場所)やレベル(いろいろな部署や役職の人達)に低コストで効率的に展開しやすくなるという。

相互接続を実現することで、ネットワーク側の機能として、ネットワーク制御や帯域管理も提供するとしている。さらに、ユーザエクスペリエンスも向上すると説明する。

ライフサイズ社は、アバイア社の「Avaya DevConnect program」のプラチナメンバー。アバイアのネットワークと接続するサードパーティ製製品の開発とマーケティング、販売を行っていくイニシャチブ。

ラドビジョン社、アエスラ社の HD ビデオ会議に 関連する知的財産の一部を取得

ラドビジョン社(イスラエル、テルアビブ、日本法人 RADVISION Japan 株式会社)は、アエスラ社が所有する HD ビデオ会議システムに関連する知的財産(技術)の一部(selected assets)を取得することで 2 月 3 日イタリアのアエスラ社と合意に達したと発表した。

ラドビジョン社がアエスラ社に現金にて支払う、知的財産取得に関わる対価については、700 万ユーロ(約 1,000 万ドル)。またそれに加え、その取得に関わる債務 300 万ユーロ(約 430 万ドル)も引き受けることで合意している。この取引は、ラドビジョンにとって、2010 年第 4 四半期以降同社の収益増に貢献してくる(accretive)と説明している。

今回の取得は、ラドビジョンのソリューションを強化すると同社では期待している。ラドビジョン社は、アエスラの HD 端末技術を、ラドビジョン社の SCOPIA ソリューションに統合することで、顧客により完全なソリューションを提供したい考えだ。具体的には、昨年サムソン社と共同開発したデスクトップ製品である「VC240」を補完し、プライスバリューの高い“ルームタイプのテレビ会議システム(room conferencing system)”を今年の後半に計画しているという。

この取得によって、ラドビジョンは、エンタープライズ市場向けに端末製品を迅速に提供できるとともに、アエスラ社のディストリビューションを活用した拡販も行えると期待しているようだ。

ラドビジョン社とアエスラ社は、2005 年より OEM 契約関係にあった。ラドビジョン社がアエスラ社にインフラ装置などについて OEM 供給を行い、これによって、アエスラ社は自社開発の端末製品と統合し、エンドツーエンドのソリューションを市場に提供してきた経緯がある。

今回の取得については、イタリアの法的機関はすでに 1 月 25 日に承認をしているが、その他のアエスラ社が所有する固定資産と取引に関する諸契約のラドビジョンによる取得に関しては法的機関の承認待ちとなっているという。

ラドビジョン社、インスタントメッセージング (IM)を介したテレビ会議を可能にする技術に ついて米国特許庁より特許を取得

ラドビジョン社(イスラエル、テルアビブ、日本法人 RADVISION Japan 株式会社)は、インスタントメッセージング(IM)を介したテレビ会議を可能にする技術(initiation and support of videoconferencing using instant messaging)について米国特許庁より特許を取得したと発表。(2 月 22 日)特許番号は、7,631,039。

インスタントメッセージングは、コンシューマだけでなく、ビジネスにおいても、非常に人気の高いプレゼンスとテキストチャット機能を統合した便利なツールであり、電話会議やテレビ会議と連動させるには、インスタントメッセージングは理想的な仕組みであると同社では考えている。

この技術によって、具体的には、インスタントメッセージングのディレクターもしくは、複数人によるIMチャットセッション中から、相手を選ぶことで簡単にまた即座にテレビ会議を開始(Initiate)させることが可能になる。対応するテレビ会議システムは、SIP あるいは H.323 に対応したデスクトップコンピュータもしくは HD テレビ会議端末。

この技術は、5 年前に同社が買収した First Virtual Communications 社(Click To Meet H.323 テレビ会議ソフトウェアを開発したベンチャー企業)から取得した技術が元になっているという。また最近取得したアエスラ社のある特定の知的財産(HD テレビ会議に関連した技術)とあわせ、今後のラドビジョンのビジネスを加速することに貢献すると期待している。

アバイアとポリコム、Avaya Aura とポリコム 製品を統合

アバイア社とポリコム社は、Polycom Open Collaboration Network (POCN)戦略の一環として両社の協業を拡大することを発表。(3 月 16 日)

両社は、ビデオ、音声、コラボレーション・ソリューションを共同で開発し、市場に投入していく。具体的には、ポリ

継続的に参画しサービスの設計を支援するとともに、ICT 技術を駆使した新しいビジネス創出を図っていく考えだ。

北海道大学は、1876年に札幌農学校として創設された12学部を有する国立総合大学。大学院保健科学研究院は、保健科学・健康科学の研究を行うため2008年4月に設置。ツルハは、全国で約1000店舗のドラッグストアと調剤薬局を展開するツルハグループの東日本地区店舗運営会社。

北海道大学大学院保健科学研究院

<http://www.hs.hokudai.ac.jp/>

株式会社ツルハ

<http://www.tsuruha-hd.co.jp>

NTT データ、シスコシステムズのテレプレゼンシステムを東京と大阪のオフィスに導入

シスコシステムズ合同会社(東京都港区)は、株式会社NTT データ(東京都江東区)が、シスコの「Cisco TelePresence System(シスコテレプレゼンスシステム)」をファシリティマネジメント部で導入したと発表。(3月1日)

NTT データでは、経営課題であったワークスタイルイノベーションの第一歩として、ファシリティマネジメント部で「Next Generation Office Project(ネクストジェネレーションオフィスプロジェクト)」を立ち上げワークスタイルの変革に取り組んだ。その一環として、東京オフィスと大阪オフィスを結ぶ新しいコミュニケーションツールとしてシスコのテレプレゼンスシステムを導入した。高品質で高画質、そして信頼性の高さからシスコのシステムを選択したという。

導入したシステムは、ルームとして区切らせずにオフィス中央のオープンな空間に設置されている。そのため、業務時間内、2拠点の社員がお互いの声をかけるだけで、会話を開始できるようになっているが、パーティションの代わりとなるロールスクリーンを下ろせば、クローズされたテレプレゼンスルームとしての利用も可能になっている。

NTT データでは、テレプレゼンスシステムで社内のより緊密なコラボレーションの促進を行うことで、出張コストやそれにとまらぬ移動時間やCO2の削減の他、災害時の緊急対策

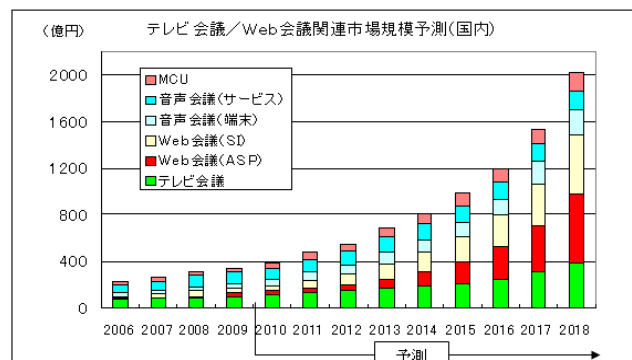
などでも迅速に意思決定を行えるなどの効果を実現しているようだ。

市場動向

シード・プランニング、業務用テレビ会議、Web会議、音声会議市場の動向発表

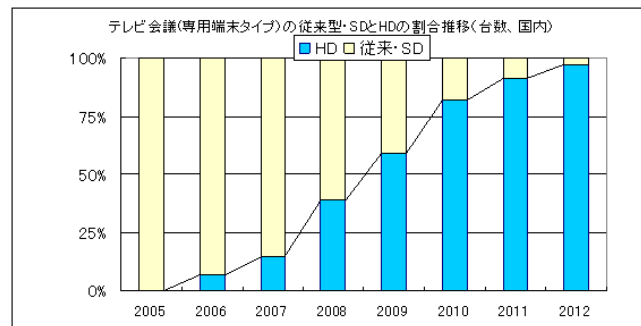
株式会社シード・プランニング(東京都台東区)は、業務用テレビ会議、Web会議、音声会議市場の動向調査を行い、「テレビ会議/Web会議の最新市場動向 2010(書籍版/PDF版)～環境対策・経済的志向で市場拡大の映像コミュニケーションビジネス～」を3月18日に発刊した。

シード・プランニングでは、テレビ会議(専用端末タイプ)、Web会議(SIタイプ/ASPタイプ)、音声会議(端末/音声会議サービス)の調査を、2003年から毎年実施している。今回の調査レポートでは、製造メーカや販売会社81社を調査し、国内外市場の現状と将来展望についてまとめている7回目のレポートとなる。また81社のうち69社については個票を掲載した。



(シード・プランニング作成)

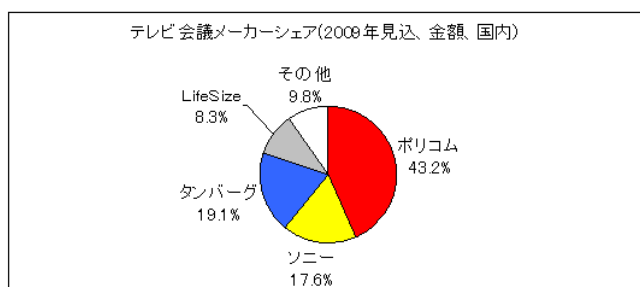
市場規模予測(シード・プランニング資料)



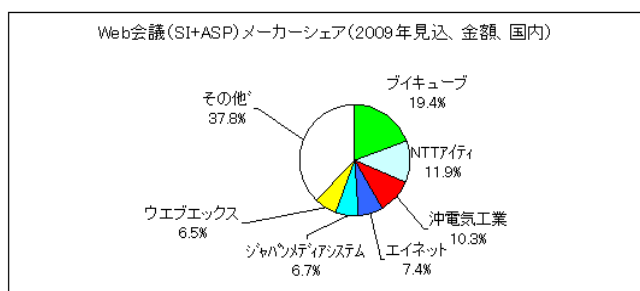
SDとHDの割合推移(シード・プランニング資料)

プレスリリースでは、国内の市場規模、市場の動向、またメーカーシェアについてのポイントが公表されている。

まず、国内市場規模について。2008年の国内のテレビ会議、Web会議、音声会議トータルの市場規模は、309億円であった。それが2013年には685億円になり、そして2018年には、2,024億円規模へ市場が拡大するとシード・プランニングでは予想する。



テレビ会議メーカーシェア (シード・プランニング資料)



Web会議メーカーシェア (シード・プランニング資料)

そういった市場拡大の中で、今後Web会議の占める割合が年々増加していくと同社では予想する。トータルの市場規模(金額ベースで232億円)におけるWeb会議の占める割合は2006年で10%程度だった。それに対して、テレビ会議(専用端末タイプ)と音声会議サービスで75%と大半を占めていた。しかし、今後Web会議の占める割合が、2012年で26%、2018年では全体の54%と年々増えていくと予想する。また2012年にはテレビ会議とWeb会議のそれぞれの規模がほぼ同じになると見ている。

国内市場の動向の特徴について。テレビ会議(専用端末タイプ)は、HD化が進んでいるという。シード・プランニングによると、国内のHDタイプは、2007年から増加傾向が見られ2009年に全体の販売台数の半数になった。上位メーカ

であるポリコム、タンバーク、ソニー、ライフサイズ(日立ハイテクノロジーズ)が従来のSDタイプから価格の高いHDタイプの製品にシフトしてきていることが背景にある。今後HDタイプの販売台数は、2012年には100%近くになると予想する。

一方、Web会議については、SIタイプとASPタイプが提供されているが、SIタイプに対してASPの割合が増えているという。ASPについては、2008年が約30%であったのが、2009年には41%と増加した。また2008年においてWeb会議を導入している企業でASPタイプを導入している割合が66%だった。それに対してSIタイプを導入している企業は、34%にとどまる。

テレビ会議メーカーのシェアについては、世界市場においては、ポリコム社、タンバーク社が上位メーカ。一方日本国内では、ポリコムが台数および金額ともシェア1位となった。ただ、2008年からHDタイプによる追い風で各社市場が拡大している。

Web会議メーカーの売上金額ベースでの2008年シェア(SIタイプとASPタイプ合計)については、ブイキューブ、NTTアイティ、沖電気が上位メーカ。

3月18日発刊した、テレビ会議/Web会議の最新市場動向2010(書籍版/PDF版)～環境対策・経済的志向で市場拡大の映像コミュニケーションビジネス～は、2009年11月から2010年3月までの間に訪問調査及びオープンデータにて調査した。A4/275ページ。価格は、126,000円(税込)

業績発表-海外

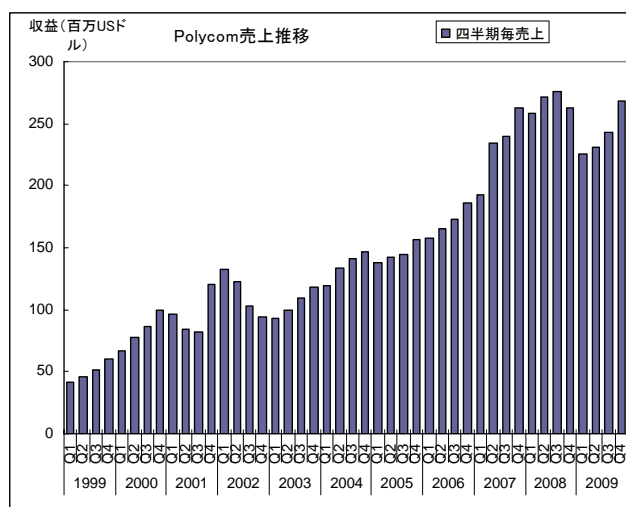
2009年第四四半期 (Nasdaq 上場企業)

(2009年10月-12月期)

ポリコム (米国)

米ポリコム社の業績発表(1月26日)によると、ワールドワイドの第四四半期の売上は、2億6800万ドル。第三四半期より10%増、前年の第四四半期より2%増の結果となっ

た。2009年通年では、9億6700万ドル。48四半期連続で無借金経営が続いている。



第四四半期の売上構成については、53%がビデオ会議システム、17%がネットワークシステム、30%が音声会議システム。またルームタイプ(Group system)の出荷台数は、22,011台。ネットワークシステムや、HDシステム、テレプレゼンスシステムをはじめとしたビデオ会議システムの売上は好調で、HDやテレプレゼンスシステムの導入の他、マイクロソフトのUCと連携したシステムを導入した企業もあった。一方IP音声会議システムも堅実に伸びているという。

また地域毎の売上割合は、北米が49%、EMEA(欧州・中東・アフリカ)が26%、アジア太平洋が21%、CALA(カリブ海・ラテンアメリカ)が4%。

ポリコムは、市場でのプレゼンスやシェアの強化のためPOCN(Polycom Open Collaboration Network)戦略を推進している。その一環として、シーメンス、ジュニパーネットワークス、IBM、アパリア、ヒューレットパッカード、マイクロソフトなどとの関係を強化している。

たとえば、シーメンスとは、シーメンスのOpenScapeとの統合、ジュニパーとは、ネットワークサービスプロバイダー向けのソリューションにおいて、また、IBMとは、LotusSametimeなどとの統合やホームテレプレゼンスシステムの開発で協力しているという。IBMとのホームテレプレゼンスシステムは、1月ラスベガスで開催されたCESで発表された。

2月には、パートナー企業とのビジネスエコシステムの構築と強化のためポリコムパートナー向けのカンファレンス「Team Polycom」をアメリカで開催。シーメンス、ジュニパーネットワークス、IBM、アパリア、ヒューレットパッカード、マイクロソフト、BroadSoft、NECがプラチナスポンサー。1月26日開催業績発表によると700名以上のワールドワイドのパートナー企業からの参加を見込んでいる。

ポリコムは、売上の大半をディストリビュータやリセラーなどを通して得ているが、販売チャネルとの関係の強化の一環として、Partner Choice Programを現在展開している。またBT、ベライゾン、AT&T、オレンジなどのサービスプロバイダーとの関係も重視しているようだ。第四四半期では、サービスプロバイダーを通じた販売の売上は、12%になった。

さらに、社内的にも、優秀な社員の採用を増やすなど販売やマーケティング部門の強化も行っている。今四半期は、109名が新たに入社し、ポリコムワールドワイド2,693名となった。

同社が開催した業績発表会(電話とストリーミング配信で実施)では、こういったさまざまな施策の展開によって、すでに事業にとってポジティブな結果(yielding positive results)がでてきているという。今後の事業展開に自信を見せる。

セミナー・展示会情報

< 国内 >

厳冬の経済状況に一筋の光明
ワークスタイル革新で 劇的経費削減と推進力増強
日時: 4月19日(月)13:30-16:00
会場: SaaSBoardによるオンラインセミナー
主催: ニューロネット株式会社
詳細・申込:
<http://www.neuronet.co.jp/seminar/mailform100419.html>

(次のページに続く)

『【決定版！】セミナー第1回 -コスト削減の決定版！-』
～「ともかく今は経費節減！」～

日時:4月16日(金)14時00分～16時30分(受付 13時30分～)
会場:沖電気工業 愛宕ショールーム(東京都港区)
主催:株式会社OKIネットワークス
共催:沖電気ネットワークインテグレーション株式会社
詳細・申込:<http://www.okinw.co.jp/event/2010/100416.html>

会議の効率化を実現！『ConforMeeting 無料体験セミナー』 定期開催

日時:
4月 21日(水) 14:00-15:00、16:00-17:00
4月 28日(水) 14:00-15:00、16:00-17:00
会場:NEC 情報システムズ 本社(東京都港区)
主催:NEC
詳細・申込:
<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

春の新製品発表会～ポリコム最新のビデオソリューションをご紹介します～

日時:4月21日(水) 15:00～17:00 (開場 14:30)
4月22日(木) 15:00～17:00 (開場 14:30)
会場:ポリコムジャパン(東京都千代田区)
主催:ポリコムジャパン株式会社
詳細・申込:<http://www.polycom.co.jp/event/20100421/>

必見！テレビ会議 最新トレンドセミナー
～次世代コミュニケーションの全貌一挙公開～

日時:4月22日(木)13:30～(受付開始13:00～)
会場:大塚商会 本社ビル
主催:株式会社大塚商会
協力:ポリコムジャパン株式会社、
ソニーマーケティング株式会社、株式会社ブイキューブ
詳細・申込:<http://event.otsuka-shokai.co.jp/10/0422ict/>

コスト削減、業務効率化、パンデミック対策にも有効
早分かり！Web会議導入の秘訣&事例セミナー
ASP型Web会議システム国内シェアNo.1のブイキューブがWeb会議システムの選び方のポイントや活用事例を紹介

日時:4月27日(火)、5月11日(火)
14:30～16:45(受付開始 14:15～)
会場:中目黒 GT プラザホール(東京都目黒区)
主催:株式会社ブイキューブ
詳細・申込:<http://www.nice2meet.us/ja/news/index2.php?id=400>

RADVISION テクノロジ・ソリューション・セミナー2010

日時:5月25日(火) 13:00-16:40(受付:12:00～)
会場:新宿京王プラザホテル(東京都新宿区)
主催:RADVISION Japan株式会社
詳細・申込:
<http://www.radvision.jp/contents/event/201004/seminar-100525.html>

*本社マーケティング責任者、開発責任者などの講演、TBU製品やVC240デモのなども予定。
ラドビジョンジャパンの出展情報:
<http://www.radvision.jp/contents/event/event.html>

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

TeleSpan ワークショップレポートは次回の予定ですが、発表されているリリースが多いため5月15日になる可能性もあります。その際にはご了承ください。

セミナー・展示会情報は、CNAレポート・ジャパンのサイトに逐次アップしていますので、そちらでもご確認いただければ幸いです。

国内イベント情報

<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外イベント情報

<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

次回も宜しくお願いします。

(橋本啓介)